

現在の私と先端基礎研究センターでの私

管理部 管財課 部 芳 子

平成12年7月21日午前3時39分大きな揺れで起きた。これは震度4以上は間違いない。早速、テレビのスイッチを入れ、地震情報を見つつ、身支度を整えた。どうやら水戸周辺は震度5弱とのこと、揺れから20分後、愛車のエンジンをふかし、国道6号線にかつとんだ。「エコノミーモード」を「スポーツモード」に切り替えて、トラックの間をくぐり抜け、管財課器材倉庫に向かった。

「震度4以上の地震が発生した場合、速やかに管財課器材倉庫を点検し、防護活動本部へ報告をする。」これが現在の私の仕事である器材係長の業務の一部である。震度6以上になると、防護器材供給センターを開設し、防護活動本部の指示により、防護器材を供給する為に、待機しなければならない。震度6になったら、道路はどうなっているか、少し不安がある。とにかく、揺れると私は出勤か、と常に頭にある。

私は水戸の住人なので、愛車に鞭打ち、かつとんでも、35分から40分はかかる。男性よりも、少々身支度に時間がかかる。と言う事で原研の近くになると折り返しと思える車に会い、少しイライラした。案の定、現場に到着した時はすでに、真砂寮住人の同僚による点検が済んでいた。いままで、地震時の点検・対応は当家の金魚、「やんちゃん」の安全を確認するぐらいだったのに……。

先端基礎研究センターを異動してから、4ヶ月がすぎた。私の先端基礎研究センターでの、最終の年度前半は、前年度の3月17日、18日に開催された「先端基礎研究シンポジウム」に引き続き、過密スケジュールだった。そして、伊達センター長から安岡センター長へと引き継がれた時期だった。6月半ばに第1研究棟から先端基礎研究交流棟への引越し、それと6月29日の先端基礎研究交流棟のこけら落としとしてである伊達宗行先生の特別講演会の準備を同時進行でこなしていた。当時、私はこれらの準備作業のために、実務にあたる

当センター内女性軍の潜在的「知と動の実力」の集中的発揮が必要不可欠なものと思い、そのために微力ながら努力をしたつもりでいる。特別講演会には多忙ではあったが、女性軍全員揃って伊達先生をお迎えした。

さらに7月14日、15日には黎明研究報告会を、10月26日、27日、28日にはNEAワークショップを無事に開催することができた。

この間、私自身の健康が心配だったが、なんとか持ちこたえることができた。

伊達先生はよく第1研究棟の基礎研究室推進室で居合わせた人達と3時のお茶の時間を過ごされた。実はこの時が私の楽しみの一つだった。もちろん難しい専門の話題は理解できないが、一般的に通ずる教訓的な話題には興味を引かれた。特にその中で「発想の転換」についての話は興味深く、大変役にたった。

一方、ソフトボール大会に参加した時には、若い時なら、もっと、もっと活躍し、駆け回る事ができたのにと「ifの世界」に一瞬入り込んだが、これこそ神が「身のほどを知れ」と現実直視の機会を与えてくれたものと受取り、若者達の応援に専念した。

私達事務職は長くても数年で新しい職場へ異動する。当然の事であるが、異動を命じられた職場で自己のもつ能力で精一杯頑張る事が私の身上である。先端基礎研究センターの4年間、私の能力で精一杯頑張ったつもりでいる。成功も不成功も皆さん達に理解して頂けた事もそうでない事も全部、私と仕事との係わりにおいて、責任を持ってやって来た事である。この場を借りてご指導、ご協力、ご支援を賜った方々にお礼を申し上げたい。

毎朝、野バトの「シュワちゃん」と金魚の「やんちゃん」に餌をあげる時、今日も一日頑張るぞと気合を入れ、出勤している。